

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 4年 2月 25日

事業所名 びっこりいさらだ

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○				今年度は定員に達していなかったため十二分にスペースが確保できた。次年度の増員に向けて活動ごとの区分けなどの準備をしている。
	2 職員の配置数は適切である	○				
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○				現時点でのバリアフリー化は十分に出来ていると思われるが、利用者に応じて柔軟な対応をする必要がある
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○				
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			夏休み後には、記述式のアンケートを実施し、事業所に対する思いを自由に書いていただき、業務の改善に繋げている	
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○				新規事業のため今年度分から公開を実施予定
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○			評議員や町の児童福祉委員の方などのご意見も参考にし、業務改善を図っていく。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			関連事業所の協力を得て少ない人数であっても十分な研修機会を設けられるようにしている	オンライン研修も増えているので、事業所の内部研修に役立ったり、なかなか遠くまで行けなかった外部研修参加も増やしていきたい。
適切な 支援の 提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○				
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○				
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている		○			活動内容によっては担当制になっているので、個々の立案をチームとして共通理解をする場を時間を決めて今後は作っていく
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			曜日ごとに決まっている活動の中で、同じ内容でも少しずつ変化をつけマンネリ化しないように工夫している	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			休日、長期休暇に特化した活動を盛り込み、1日の利用が平坦にならないようにしている。	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○				
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○				
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			児童の送迎時間に合わせた勤務体制を取っており、退勤時間にばらつきがあるため、振り返りは翌日の支援前打ち合わせと合わせて行なっている。翌日にはなっているが、必ず共有し、支援に繋げている。	
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○				
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○				
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○					

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○				
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○				
関係機関や保護者との連携	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている			○	現在、受け入れをしていないが必要に応じて連絡体制を整えていく	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○			利用開始前には必ず、相談支援専門員が開催する支援会議に参加し、保育園や児童発達支援事業所との情報共有を図っている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○			当事業所が低学年対象の事業であるため、次のステップとなる事業所とは、利用前に十分な交流を実施しスムーズな移行を心掛けている	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			毎月事例検討を実施し、ページ指導員の助言を受けている。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある			○		今年度は新型コロナウイルス感染症対策の面から活動を控えていたが、来年度は状況を見極め出来る限り実施に向け検討していく
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○			自立支援協議会における子ども部会に参加し、他事業所と協働してツール作成やイベントによる障がいの理解啓発にも寄与している。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			送迎の際に、保護者の方にお会いできる少しの時間を大事に、些細なことなるべく口頭でお伝えできるように心掛けている	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている			○	専門的なアドバイスや相談支援を行っていると考えますが、十分ではない。	今後も相談支援を継続し、信頼関係を構築する中で、十分な支援に繋げたい
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○				
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			送迎時やお電話では随時、話をお聴きできるようにしているが、今後はライン等も活用して保護者の方が発信しやすい環境を整えていく	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している			○		今年度は新型コロナウイルス感染症対策の面から活動を控えていたが、来年度は状況を見極め出来る限り実施に向け検討していく
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○				
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○				
	35	個人情報に十分注意している	○				
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○				
37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている			○		今年度は新型コロナウイルス感染症対策の面から活動を控えていたが、来年度は状況を見極め出来る限り実施に向け検討していく	

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している		○		2022版マニュアルを作成中。改めて、周知徹底する予定。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○			
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している		○		事例集の作成までは事例が多くないが、報告を随時行ない、再発防止に繋げたい。